



# 防災知識のレベルアップを図る 平常時の活動

## 1 まずは、個人レベルの防災知識を向上させよう

災害が発生したとき、防災活動を迅速・的確に行うためには、一人ひとりが防災知識を高めておくことが重要になります。地震や風水害の基礎知識（P19～参照）のほか、消火器の使い方、防災資機材の扱い方、避難誘導の手順や応急手当の心得など、知っておくべきことはたくさんあります。

自主防災組織では、個人レベルでの防災に関する知識を向上させるための取り組みも重要です。

具体的には、次のような取り組みが有効です。

### ●取り組みの例●

- 防災知識に関するチラシを作成し、各家庭に配布する
- 市町村や消防機関が主催する講演会情報を提供する
- 起震車に乗る機会をつくる
- 災害対策に従事した人の体験談を聞く



▲起震車で地震の揺れを模擬体験



▲いざという時落ち着いて消火できるよう実際に消火器を使ってみよう

## 2 地域の情報を共有し、まちの防災力を高めよう

もしも、災害が起こったとき、あなたはどの道を通って、どの場所に避難すれば安全かご存じですか？

災害による被害を軽減するには、住民のみなさんが地域の正しい情報を共有することが非常に大切になります。

自主防災組織には、地域情報の収集・発信の中心的存在としての役割も期待されています。

日頃から皆さん一人ひとりが気付いた情報を交換し合い、『防災マップ』としてまとめたり、『防災コミュニティ・ファイル』として共有すれば、地域の貴重な財産として広く活用することができます。



## 3 防災マップを作ってみよう

災害による被害を軽減するためには、自分の住むまちの災害危険性を知ることが重要です。正しい知識を地域のみなで共有する手段として、災害・防災に関する情報をまとめた防災マップの作成はたいへん有効です。

防災マップには、まず、防災拠点となる消防施設や避難場所などの基本情報を、マークなどを使って分かりやすく表示しましょう。

さらに、土砂崩れや津波など、自分たちの暮らす地域にとって危険度の高い災害に対する情報も盛り込みましょう。

その際には、県や市町村が公表している被害想定調査の結果や、災害に由来する古い地名といった地域に古くから伝わる言い伝えも参考にしてみましょう。こうした伝承の中には、地域の潜在的な災害危険性に関する情報や災害の前兆、被害の回避の仕方など、防災上有効な情報が含まれています。

**防災マップ作りのポイント** 自分たちの地域にとって危険度の高い情報も地図上に表示しましょう。

**●地震災害に注意が必要な地域**

- 密集地で一時的な安全を確保するための一時避難場所
- 延焼火災から安全を確保するための広域避難場所
- 負傷者用の臨時救護所の開設予定場所
- 緊急車両以外の車両通行が規制される緊急輸送路

**●津波の発生が予想される地域**

- 過去の津波浸水区域
- 津波から安全を確保するための津波避難場所や避難路
- 津波警報や避難命令等を広報する非常警報施設

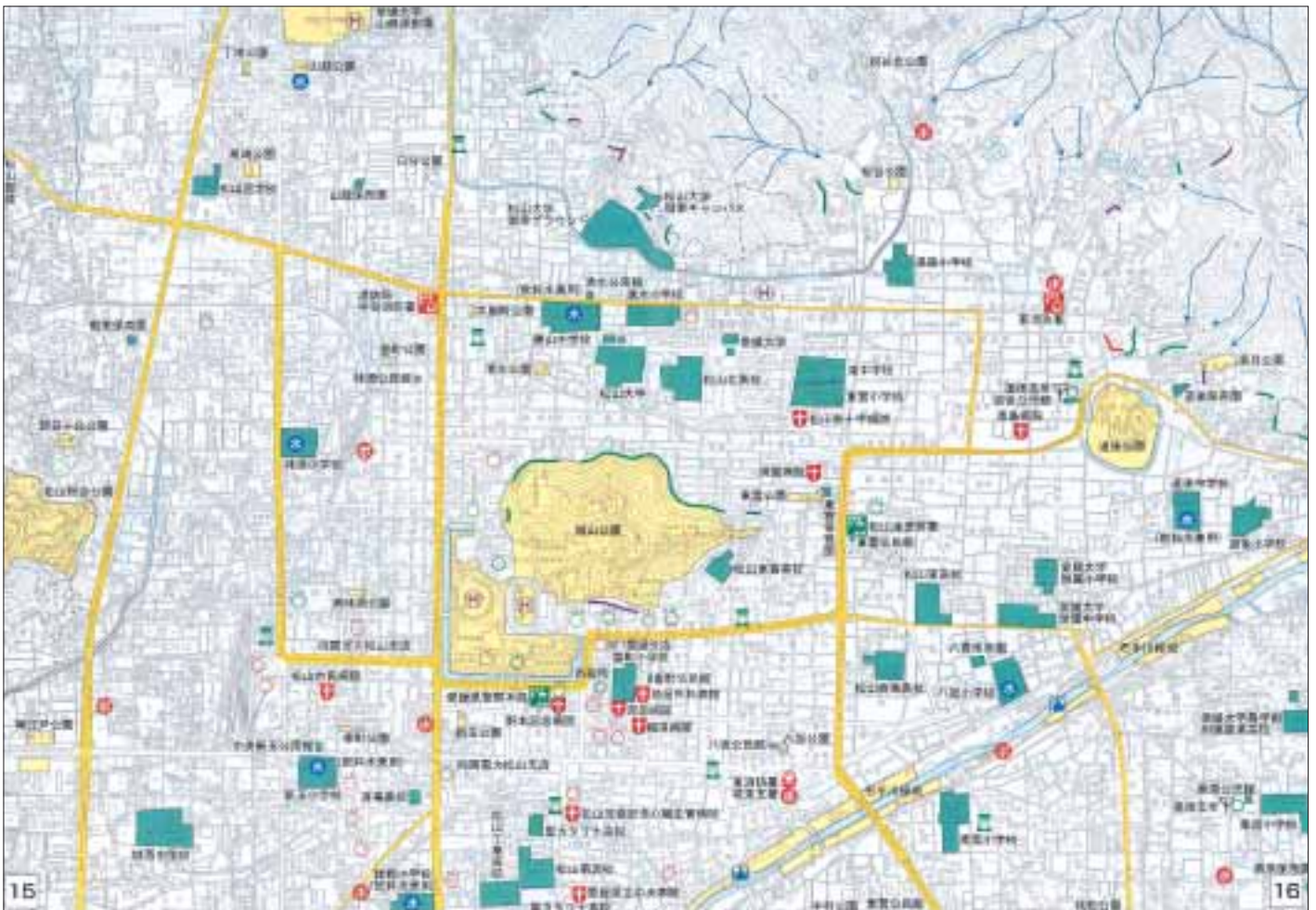
**●水害の発生が予想させる地域**

- 過去の浸水箇所
- 水害防御に注意が必要となる河川の重要水防箇所
- 水害から安全を確保するための風水害用避難所

**●土砂災害発生が予想させる地域**

- 過去の災害発生箇所
- 危険であるとされている土砂災害危険箇所
- 土砂災害危険箇所の被害影響範囲
- 土砂災害から安全を確保するための風水害用避難所や避難路

**■松山市の防災マップを参考にしてみよう**



消防施設	その他公共・公益施設	災害危険区域・警戒区域	水防区域等
消防署	一時避難場所(公園・緑地)	災害危険区域	河川水防区域
支署	避難所	急傾斜地崩壊危険箇所(自然斜面)	河川水防区域の内、特に危険な箇所
ポンプ蔵置所	備蓄倉庫	急傾斜地崩壊危険箇所(人口斜面)	海岸・港湾水防区域
防災関連施設等	防災行政無線	土石流危険溪流	ため池要水防箇所
警察署	耐水性貯水槽	山腹崩壊危険地区	
交番	ヘリコプターの飛行場外離着陸場	崩壊土砂流出危険地区	
救急医療機関	水門・樋門等	地すべり危険箇所	
市役所・支所	緊急輸送路		
国・県の公共施設			